

明朗快活な永田会長の挨拶で始まった第38回の首都圏段戸会総会（10月30日（土）開催）は、台風の接近による悪天候にも拘らず、高校2回から62回生まで249名の会員のご参加により、今年も大盛況でした。

招聘恩師は、石川耕春先生、村井憲明先生、吉野功先生、青山伸一先生、石川邦利先生、岩瀬雄高先生、藤原波一先生の7名。先生方に会えるのを楽しみに集まつた方も多く、どの先生も教え子に聞まれ、懐かしさでいっぱいのご様子でした。



永田会長挨拶



高須勝行校長先生

本校同窓会の中根勝美会長は地元と東京の繋がりを、岡高の高須勝行校長は現在の岡高生の活躍ぶりをお話くださいり、お二方のお話からは、同窓生たちが築いてきた歴史や人との絆を大切にする思いが強く伝わってきました。

講演会では、天然物有機合成化学の世界的な第一人者であり、2009年秋に紫綬褒章を受章された東京大学大学院薬学系研究科教授の福山透先生（高19回）が「（やはり）人生は楽しむしかない！」と題して、ご自身のこれまでの歩みをお話くださいました。先生は「すごい人なのに気さくなお人柄」（村木央明（高19

高50回 烏居福代

平成22年度総会・懇親会報告

平成23年4月
第27号



講演会 福山 透さん



恩師紹介

心も体も温めて
くれました。
この温かな雰
囲気をさらに多くの方に楽しん
でいただけます
ように、次回も
皆様のご参加を
心からお待ちし
ております。

に開まれて過ごすのが楽しいというお言葉に、人との絆を大切にされる思いを感じました。



「段百華教室」の作品が会場を飾る

古希組のひとりとして

た次第である。

福山透氏（19回）の講演『やはり人生楽しむしかない』は、我々古希組には特に有益であつたのではないだろうか。それにも拘らず8年も後輩の福山氏であるが、ノーベル賞候補と会長、事務局長から紹介のあつたように、さすがというべく人生を極めたゆえのお話しではなかつたかと思う。人生を極めずに、ただ古希に達するまでは生きてきたという私の場合は、まだまだ大いに世の為人の為に努力し、苦しみも味わえということであつ



山崎宣典さん 中根 淳さん

業同期生は
古希記念と
いうことで
無料招待い
ただき、首
都圏在住同
期生総勢50
余名の内13
名が出席し

論語の一節には、『七十而從心所欲、不踰矩』とあるが、あの孔子様でさえ、七十歳になるまでは、自分の思うまま振舞うとどこか道を外れていた」と理解すると、私などは、「道を外れること死するまで」でも良いではなかろうか、と気が楽になる。



古希を迎えた皆さん

首都圏同期会、そして不定期での会食懇談の宴が催されて、いずれにも岡崎からも何人かが参加するのであるが、正に『有朋自遠方来、不亦楽乎』の上質な会話、刺激ある会話を楽しんでいる。平均余命男15・1歳、女19・6歳の古希組として、孔子様や福山透氏の言葉をかみ締めながら、今後も刺激を求めて元気に過ごしたいものである。男女の余命の差はいがんともし難いので、残すところ10年間のことであらうか。

最高齢出席者の高3回生の皆さん

ジア、旧ソ連
諸国やアフリカ等との
国際協力を
通じて家族
と共に過し
た地域の
人々との温
かいふれあ
いやご縁か
ら学んだこ
とを大切に
して い ま す
が、第二の



丹羽 鼎さん（高3回） 稲垣富一さん
共通の海外協力話に花が咲く



佐野公治さん／神谷国広さん／溝江信之さん／山田知里さん

性に岡高時代が懐かしくなり、同期生が集まることが多くなりました。昨年6月に岡崎で同期会を開催し、約90名の参加がありました。首都圏にも40名余の同期生が確認されており、今後段戸会の輪を拡げていきたいと考えております。

高22回 横原 誠さん 上田洋子さん



私は数年前、段戸会の世話をしていたことがあります。当時はどうしたら、卒業生がより多く出席してくれるのかをいろいろと考え、200名近くになれば、とても達成感があつたと記憶しています。ところが、最近では優に200名を超えるまでになっていました。

これだけ多くの卒業生が参加をするのは、裏方である世話人の方々の並々ならぬ努力の結果であり、参加する者としては当時の仲間に会える事はもちろんの事、大学在学生にとっても気軽に先輩と話ができる事で「この会の存在」そのものを大切にしたいという思いの表れだと思います。

今回、一卒業生として久々に出席いたしました。あいにくの悪天候にもかかわらず、約250名もの出席者があつたことは驚きであり、この会の力強さを改めます。

て感じました。

の総会、懇親会に初めて参加させていただきました。会場には、幅広い年代の方々が集まり、最初は少し不安でしたが、話してみるとなぜか初めてあったとは思えない親近感がありました。懐かしい先生方にもお会いすることができ、短かつた3年間が鮮明に思い出されました。

通った時代は違えども、同じ学び舎で同じ校歌を歌つてきた同郷の方たちというのは、とても温かくいいものだと感じました。首都圏でも、大変なご活躍をされている諸先輩方にお会いすることができ、力が湧いてきました。このよう、地元から離れてもしつかりとした結束力で結ばれている岡校魂は素晴らしいです。次回もぜひ参加したいです。



高35回 鈴木 山人 東京に転勤して3年、10月某日に岡崎高校をネットで検索したところ、首都圏段戸会HPを見つけ、会員登録したら、会員担当の同期の菅君から、

毎回同期が多く集まると聞き、総会に参加しました。会場に着いて、受付に同期の懐かしい顔を見つつ、総会では一人寂しく座りました。恩師紹介で同期の岩瀬君が登壇してびっくり！また吉野先生や青山先生のお元気なお姿も拝見できました。

懇親会に移り同組だった池田（旧姓大谷）さんと清水（旧姓加納）さんを見つけ、変わらないお二人に心は昔へ還りました。テーブルでは同期の再会や他の参加者のお話を大いに刺激を受けました。その後も有志二次会で学年を超えて盛り上がり、充実した1日でした。

幹事の皆様の努力に感謝いたします。次回もぜひ参加いたします。

今回、友人に誘われて、首都圏段戸会

高49回 青島 信吾 今回、友人に誘われて、首都圏段戸会



高62回

大山なつみ 大崎 友莉

月に岡崎高校を卒業した私たちは今回初めて首都圏段戸会の総会、懇親会に参加させて頂きました。総会での



福山透さんのとても興味深いお話をはじめ懇親会でも様々な場で活躍している先輩方とお話しでき、とても素敵な時間を過ごせました。高校在学中には接する機会がもてない大先輩とも知り合うことができるこの会は素晴らしいと思います。ぜひ次回も参加したいです。

特集

人生お楽しみ中！

ミュージカル劇団に参加して

高7回 村上 潤子

(旧姓・弥富)



1999年3月、私はアマチュアのミュージカル劇団「ステレードア」の一員になりました。実はその何年か前に、中学の同級生の男性が同窓会の席で、「定年になつたらミュージカルをやる」と言っていたのを小耳にはさんで興味を持ち、「私も入りたい」と頼んでいたのが実現したのです。

この劇団は1992年に発足し、毎年、青山円形劇場で、初夏の土日2日間に計3回の公演を行つてきました。団員は20数名で、大半が中高年ですが、若い人たちも何人かいます。三分の一が男性です。

脚本の作者はアメリカ人、翻訳と演出は座長の伊藤さんということになつていますが、実は、脚本は全て伊藤さ

まです。

今年は20周年記念公演です。

私は、残念ながら、個人的な事情で参加が難しくなりそうです。

が、出来れば是非、客席から観たいと願っています。

タップ（美術・照明・音響・作詞・作曲・振付・衣装・演技指導・歌唱指導・舞台監督）が実力のあるプロの人たちだということです。大勢の人たちに支えられて、私たちは心から舞台を楽しんでいます。

この劇団の公演のスゴイところは、スタッフ（美術・照明・音響・作詞・作曲・振付・衣装・演技指導・歌唱指導・舞台監督）が実力のあるプロの人たちだけがボランティアの方々で行われていた。この中に地域の特に熟年の方たちが集まつて食事と歓談のできる場を作ることにした。毎週木曜日の昼、食事とケーキ、コーヒーを作ることにした。当初は女房の指導の下に食事作りに励んだ。また、手伝ってくれるボランティアの方々にも支えられた。途中病気で中断もあつたが、約12年間続いて、参加者も約2万人に達した。料理の腕前、ケーキ作りにも自信が持てるまでになった。これだけ続いたのも色々な楽しみがあつてのこと。一つには、例えば四十人分を作る場合、どのような段取りにするかを考えること。私も化学工学出身としての腕がふるえた。二つには、どのような料理にするかを考えること。三つには、食べた方の反応を知ること。これが長続きしたもの。しかし残念なことに、建物が老朽化し立ち退きとなり、この活動がお仕舞いとなつた。

店の名前は「杉さんの店 檿」。店の前の広場に枝振りの良い檜の大木があります。それに因んだ。

ロゴマークは私の似顔絵付である。



イラスト：杉本和彦

んの書き下ろしです。団員は毎年、脚本の出来上がりをワクワクしながら待ち、割り当てられた新しい役にチャレンジします。

オーナーシェフになりたくて

高8回 杉本 和彦

今から13年前、石油会社を59歳で退職した。それまでの会社人間からどのように脱皮できるか、考えた結果、地域に活動の場を見出す以外ないと考えた。住まいは横浜磯子の汐見台団地で、約4千戸の低層共同住宅が丘陵地にある。退職した当時すでに30年経過していたが、団地内に電信柱が一本もないというユニークな設計であった。住民の高齢化が始まっていた。先人が開拓した福祉の場が団地内にあって、配食、家事サービス等がボランティアの方々で行われていた。

この中に地域の特に熟年の方たちが集まつて食事と歓談のできる場を作ることにした。毎週木曜日の昼、食事とケーキ、コーヒーを作ることにした。当初は女房の指導の下に食事作りに励んだ。また、手伝ってくれるボランティアの方々にも支えられた。途中病気で中断もあつたが、約12年間続いて、参加者も約2万人に達した。料理の腕前、ケーキ作りにも自信が持てるまでになった。これだけ続いたのも色々な楽しみがあつてのこと。三つには、食べた方の反応を考

ること。二つには、どのよ

うな料理にするかを考えること。三つには、食べた方の反応を考



編集者注 「杉さんの店 檻」は磯子駅から850m、横浜市磯子区汐見台1-6-1-109、電話：045-751-4211

なぜこの仕事を? —マスコミの巻

興味をとことん掘り下げる

高35回 佐藤 千矢子



本社政治部のデスク席にて

「なぜ新聞記者者という仕事を選んだのですか?」と聞かれるのは、何か特

は少々困ります。何か特

別な経験や、

やむにやまれぬ思いがあつたわけではな

いからです。

あえて言えば、社会の仕組みを自分の納得のいく方法で突き詰めてみたかった。そして問題があれば、自分が書くことを通じてそれを変えることに参画するといふ形で、社会貢献につながる仕事をしたかったということでしょうか。

こういう話を就職活動中の学生さんたちにすると、よく「じゃあ昔から書くのが好きだったんですね」と聞かれます。

岡高時代は、そんなことは考えたこともありませんでした。名古屋大学文学部に進んで、サークル活動を選ぶ時、先ほど述べたような興味が無意識に働いたからでしょうか、まず大学新聞に入ろうと思いました。けれども、学生会館内のサークル室のぞいて、自分の目指すものとちょっと違うと感じました。たまたま隣に汚いプレハブ小屋があつたので行つてみると、「名大評論社」という、ミニコ

ミ誌を出す小さなサークルがありました。集っている人たちの面白さ、議論に惹かれ、即、入会。それから4年間、そこで活動が、私のあまり真面目とは言えなかつた学生生活の拠点になりました。

1987年に大学卒業後、毎日新聞社に入社し、3年間長野支局に赴任しました。

全国紙の記者は入社すると、通常こうした地方支局に数年間勤務して、基礎を学びます。

まだパソコンも携帯電話もない時代。事件事故や火災が発生すると、急いで地図を片手に車を運転して現場に向かいます。現場では、まず写真を撮って、関係者から手当たり次第に話を聞きます。原稿を書き終えると、次は補強取材をするために警察官や関係者の自宅に夜回り取材に行きます。大きな事件ですと、「夜討ち朝駆け」といって、関係者から話を聞くために深夜、早朝に押しかけて行つて取材をするような生活が何日間も続きます。

その後、1990年から政治部、2001年からワシントン特派員など、いろいろやらせてもらい、現在は政治部副部長として菅政権を日々ウォッチしていくが、取材の基本は長野支局時代とあまり変わりません。

新聞記者にとって、記者会見や当局の発表は、一つの取つかかりに過ぎません。その背景にあるものや、隠された事實を掘り起こし、世の中に知つてもらったり、問い合わせたりするのが新聞記者の仕事だと思っています。限界というものがありませんから、つらい時もありますが、それだけに知的刺激に満ちていて面白い仕事だと思っています。

「人間力」で勝負!

高43回 東 武雄

菅内閣の支持率が「危険水域」とされ

る20%台前半に達し、永田町は風雲急を告げています。連立の組替えや政界再編の可能性も指摘される中、今後の政局を占うキーマンとされるのが、首相の女房役で「影の总理」とも言われる仙谷由人官房長官。私は今、読売新聞政治部で

仙谷氏の番記者をしています。

岡高では放送部で部長を務め、漠然とマスコミ業界に対する憧れを持つていました。その後、大学で政治学を専攻したこともあり、政治記者を志望。95年に読売新聞に入社し、長野支局で地方記者として約5年間修業を積んだ後、01年から政治部で小泉純一郎首相、青木幹雄自民党参院幹事長、前原誠司民主党代表(現外相)、菅直人副総理(現首相)を担当してきました。

政治記者としての10年間を振り返った時、最も印象に残っているのは09年夏の政権交代です。当時の私は菅直人・民主党代表代行の番記者で、衆院選の全国遊説に同行し、取材を重ねました。

「政権を取つたら、俺はこれをやりたい」

夜な夜な菅氏と酒を飲み、具体的な政権構想について話を聞いた時は胸躍つたものです。そして民主党が圧勝すると、私の仕事場も「野党クラブ」から「官邸クラブ」へ。民主党政権下で最初に直面した取材競争は、鳩山首相の組閣人事でした。ここで、野党時代から築き上げた取材ネットワークが生き、全閣僚の顔ぶ

れをスクープすることができます。

政治記者の仕事は、「急ぎ足で歩く政治家を取り囲みながら質問をぶつけること」と思われがちですが、これは基本動作の一つに過ぎません。最も大事なのは、じっくり時間をかけて政治家と人間関係を作り、重要な局面で1対1で話を聞けるようになります。これが特ダネにつながります。

では、どうしたらいいのでしょうか。ぱつと思いつくだけでも、政策に関する知識、政治家の言動に対する洞察力、幅広い人脈に基づく情報収集力、昼夜を問わず取材で駆け回る体力など、幾つもの要素が思い浮かびます。ただ、最も重要なのは、取材相手に人として信頼してもらうことだと思います。

記者という職業には、これらを総合した「人間力」で勝負できる醍醐味があります。かく言う私も、まだまだ「人間力」が足りません。難攻不落とされる仙谷氏を相手に、研鑽を積む日々です。

(編集者注: この原稿は2010年12月に執筆されました。)



菅直人民主党代表代行(当時)のイギリス訪問(09年6月)に同行 右端が私

段戸句会 活動報告

2004年春、首都圏段戸会において、いろいろなサークルを作って活発な交流を図ろうという機運がもりあがった。その一つが俳句の会で、段戸会世話人の青山裕治さん、山口知子さんから小生に話しが持ち込まれた。そこで同期の杉原洋さん、小森葆子さん等に相談して、ネットを使った段戸句会が立ち上げられた。しかし悩みは、選句・添削等のご指導を誰にお願いするかであった。結果的には、小森さんや小生が加入していた高浜虚子を直系とする俳句結社「かつらぎ」において、指導的立場にあり添削の名人といわれる平田冬か（本名環、旧姓仙波、14回生）さんにお願いしたところ、快く引き受けて下さった。冬か先生は、「かつらぎ」の特別同人で、NHK学園俳句講座の講師でもあります。

ネットのメリットを活かし、全国の卒業生および現役の生徒も参加可能としております。スタート時から今までに、延べ25名の方（関東・東海）が加入してくださいましたが、現在は17名が継続的に参加されております。2ヶ月ごとの奇数月末までに投句（兼題または当季雑詠にて5句）、その後ネットを通じてお互いの選句、そして最後に先生の選句がおこなわれ首都圏段戸会のホームページに紹介されるという仕組みです。右に冬か先生の句と、各自が主にこの会を通じて投句した中から、自薦の一句を紹介させていただきます。

俳句の効用としては、①季節を詠む詩だから、その時折の自然・人の生活の営みに目が向けられ心が癒される。また、生活の中で些細なことに拘りがちになる場合にも気分転換が容易になる。②五七五の17文字に、感動を凝縮しつつ感情を内包して表現する訓練ができる、等々です。同窓という共通項を有し、しかもこのような趣味を持つ人たちとの交流により、人生にさらに彩りを加えてみませんか。この会の代表は小森葆子さん（shigeko_komori@ybb.ne.jp）事務局は野村親信さん（nomurac@jcom.home.ne.jp）です。なんなりとお問い合わせください。全国からの入会をお待ちしています。

本多正之（高13回）

（ ）内本名

とりあへずサラダボールに金魚飼ふ

平田冬か先生

風鈴の昨日饒舌今日寡黙

〃

家族みな猫まで風邪を引きにけり

〃

* * *

麦踏や大地の力信じをり

市川毅（7回生）

屋形舟櫓比に舫ひ鵜舟待つ

山崎圭子（10回生）

馬場に出る乗り手も馬も息白し

林雪音（泰子、11回生）

橋の上より鯉見ゆる帰省かな

本多悠天（正之、13回生）

七草に数へられねど吾亦紅

杉原洋馬（洋、13回生）

珈琲の香り弥増す秋の夜半

新井康夫（13回生）

春愁や手習ひの筆とれどなほ

鈴木康允（13回生）

豆ほどの雛の調度に葵紋

小森葆子（13回生）

立錐の余地なし畦の曼珠沙華

宮田望月（恵美子、13回生）

ひとひらが色のるつぼや柿紅葉

中島彩（綾子、14回生）

木漏れ日のまぶし若葉の天城越え

満江信之（15回生）

山頂に近づくほどに秋めきぬ

鈴の木正絃（鈴木、15回生）

菊人形「武藏遅い」と見据ゑたる

宮崎勉（16回生）

ぜんまいののびてのの字を伸ばしけり

野村親信（16回生）

年用意ひとつひとつに母の声

鈴木六花（弘恵、16回生）

大の字に寝て空の底げんげ畑

（故）大野朝香（朝子、16回生）

木犀の香りのなかに雨やどり

鈴木寛（17回生）

少年のTシャツ褪せて夏終はる

深谷美智子（17回生）

第17回段戸フォーラム（2010/7/26）報告

「日本企業の再生と価値創造（海外資本投資企業の視点から）」

講師：中野宏信氏（高30回）

（東大工学部金属工学科卒後トヨタ自動車に在籍。ペンシルバニア大学経営大学ウォートン校でMBA取得後、経営戦略・投資立案・会社更生支援の道を歩まれ、産業再生機構で多くの企業再生プロジェクトを指揮、現在はCITIC CAPITAL Partners Japan（中信資本）日本代表）



今フォーラムでは多くの企業再生の経験、海外資本から見た日本企業の特色とその企業価値再生（創造）などについて、カネボウ・ダイエー・鳴海製陶他の実例を交えて分かり易く説明、かつ熱い思いを語って頂きました。

当日はフォーラム史上最多の28~70才までの35名が出席。Private Equity Fund、企業倒産・再生現場、ファンドの功罪、中国系ファンドの特色、国内老舗企業の救済・価値向上等旬な話題が次々に紹介されました。一連の講演内容からは、講師ご本人の高い志と冷静な分析力、仕事に賭ける情熱が皆さんに直

接伝わり、集中して耳を傾けるホットな1時間となりました。フリーディスカッションでは各年齢層からの質問が相次ぎ、予定の1時間をオーバーして進行役の質問打ち切りまで一問一問に対し丁寧なご説明を頂きました。終了後の2次会には全員が参加し、フォーラムの熱い議論が引き継がれて大いに盛り上がりました。金融・ファンド・投信・証券・法律事務所等に携わる若手会員が多く出席され、講師・会員相互の交流が実現できましたこと、そして「産業再生・企業の価値向上」を目指す分野への関心の高さを認識できたことは今後のフォーラム運営にぜひ活かしたいと考えます。 天野（高20回）



D-misoプロジェクト活動報告

～皆で大豆を育てて赤味噌を作ろう！～

① D-miso2009の米味噌完成 !!

岡崎のカクキューさんに仕込んでいただいた米味噌が昨年秋に出来上りました。D-miso会員の皆さんに発送するとともに、総会でお味噌汁として味わっていただきました。記念すべき初味噌は、手前味噌ですが大変おいしく味わい深くできました。八丁味噌はもう1年熟成していますので、今年の秋までお待ちください。



② D-miso2010味噌熟成中！

約40名の参加で継続しているD-miso2010。猛暑で心配された大豆の生育ですが、2年目ともなると多くの方が収量アップ！ 大豆栽培のコツがつかめてきたのかもしれません。この大豆は2月にカクキューさんで米味噌として仕込んでいただき、熟成中です。D-misoブログ（<http://d-miso.jugem.jp/>）で進捗状況をお知らせしています。プロジェクトへのお問い合わせは、D-miso事務局（d-miso@googlegroups.com）まで。

報告：長野（高42回）

平成23年度世話人

(高2回)服部登鼎
(高3回)丹羽弘政
(高6回)有馬定利
(高7回)是津嘉田厚生
(高8回)杉浦嘉中
(高10回)山本眞宏
(高11回)永田中根
(高12回)鶴田文成
(高13回)中瀬浩之
(高14回)磯尾鏡子
(高15回)神谷満江
(高16回)鈴木親野

会計監査

会長

広報担当

副会長

副会長

(高17回)伊与田正彦
佐伯寛子
山田博子
(高18回)山内恵
(高19回)都築正行
福山木央明
(高20回)天野隆太郎
辻村貴典

会計

情報担当

事務局長・企画担当

副事務局長・企画担当

(高21回)小栗子
清水惠
山田俊治
(高22回)青上
(高23回)野々
(高25回)戸
(高26回)織
(高27回)長
山崎
(高28回)石
(高30回)米
(高31回)畔
(高32回)堀
(高33回)阿
(高34回)板
(高35回)岡

情報担当

副事務局長・書記

会計

副事務局長・企画担当

情報担当

書記

企画担当

企画担当

企画担当

企画担当

企画担当

企画担当

会員担当

企画担当

企画担当

企画担当

会員担当

第38回(H22年) 首都圏段戸会総会出席者

岡高OBの恩師は各年次に含めています。

(校長)	高須勝行	佐伯寛子	鋤柄陽子	高岡由恵	田畠誠子
(恩師)	村井憲明	青山伸一	鈴木尚子	鈴木 寛	中根 一
	石川邦利	竹嶋栄子	林田幸子	原 えつ	早川慎吾
(高2・中51回)	青山敦夫	石川耕春	深谷美智子	見田のぶ枝	(高33回)
	太田 久	今野幸一郎	三輪政代	武藤隆子	
	近藤賢八郎	服部 登	山田博子	吉野 功	(高34回)
	三井正次		石原莊介	伊藤信二	
(高3・併23回)	宇津野隼千	小澤一郎	伊藤博邦	音部昌宏	
	加藤正義	鎌木道子	佐口正司	清水久雄	
	後藤三千代	高木次男	杉山孝博	山内 恵	
	丹羽 鼎	蜂須賀芳昭	安藤 昭	石榑直美	
	平井英次	柳澤玖枝	木下武司	香村幸夫	(高35回)
	米津勇美		近藤陽一	高橋伸芳	
(高6回)	有馬弘政	長瀬けい子	高橋 裕	竹内由紀江	
(高7回)	青山明博	市川 育	都築正行	長崎秀子	
	斎藤悦子	富田昌光	野澤信一	則竹千恵子	(高38回)
	永田綾子	吹抜敬彦	福島安史	福山 透	(高40回)
	三井豊美	村上灘子	藤田孝義	宮崎収兄	(高41回)
(高8回)	安藤逸平	小野勝巳	村木央明		
	工藤圭章	近藤忠男	天野隆太郎	伊与田あさ子	(高42回)
	杉浦嘉久	高橋道人	神尾由恵	北野光敏	
	田中厚生	外村 仁	木村和明	斎木令子	(高43回)
(高10回)	木村富司雄	山田 敏	杉浦康司	関戸博高	(高44回)
(高11回)	青木かゑ子	阿部泰子	辻村貴典	原田勝広	(高45回)
	今井哲夫	梅村豊子	兵藤秀和	矢吹 清	(高46回)
	太田栄之	杉山樹三郎	山本良二	吉原 誠	(高47回)
	竹嶋俊紀	永田 宏	渥美忠男	小栗恵子	(高48回)
	中根勝美	中根 淳	徳田 登	内藤良江	(高49回)
	中村嘉子	本多慶成	矢田金市	山田俊文	
	水野義之	山崎宣典	上田洋子	榎原 誠	(高50回)
(高12回)	稲垣早苗	鶴田尚弘	中村賢治		(高51回)
	鶴田文男	成瀬 徹	清水郁夫	永井 寛	(高52回)
	吹抜洋司		野々山浩		
(高13回)	神道千秋	鈴木功一	(高24回)	大島一嗣	(高53回)
	中 浩之	新実昭治	(高25回)	戸田譲三	樋江井和徳
	藤田訓弘	本多正之	(高26回)	石橋容子	大山幸信
(高14回)	阿部完二	天野 彰		織田利彦	小島祐子
	磯尾 進	稲垣富一		高橋芳子	富田信子
	太田眞澄	笠原 紘		山口知子	山本修己
	糸田輝義	笛瀬 修	(高27回)	長田光雄	藤原波一
	中野元雄	中島綾子		宮川龍也	山崎正枝
	水谷鏡子				
(高15回)	神谷国広	佐野公治	(高28回)	三枝奈芳紀	
	満江信之	山田智男	(高29回)	鬼澤敬子	
(高16回)	鈴木貞雄	鈴木弘恵	(高30回)	石川定雄	中野宏信
	野村親信	横井昭親			米津智徳
(高17回)	伊与田正彦	小林和子	(高31回)	小林 淳	野木村美紀
			(高32回)	井関美穂	河野靖志